

第41回 民放労連全国女性の集い

京近江へおこしやす！
琵琶湖畔の温泉でほっこり！

日時 6月5日(土)～6日(日)

場所 琵琶湖グランドホテル

講師 姿月あさとさん
(元宝塚宇宙組トップスター)
砂田登志子さん
(元ニューヨークタイムズ記者)

◆◆各地連参加目標◆◆

北海道	5名	中四国	25名
東北	12名	九州	23名
関東	40名	沖縄	5名
北信越	12名	東京支部連	5名
東海	8名	本部	15名
近畿	70名		
		合計	220名

であるのは事実だ。出生率の低さを考えると、従業員の産休中給与を補償したところで、企業の支出は多くない。
トークセッションで発表したTVQ労働組の女性(一人目の出産は



基調報告をする労連本部羽原副委員長

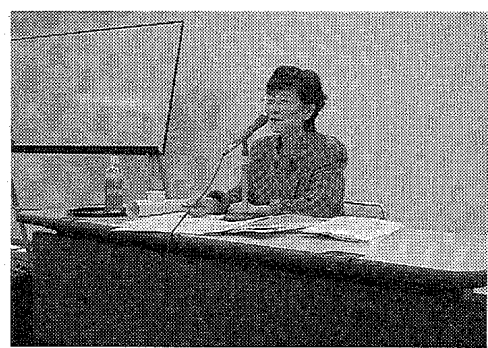
次に、龍谷大学の脇田滋教授が「何が変わったか」労基法・派遣法」と題して講演を行った。2003年に一部改定された労働法の踏み込んだ解釈法、改定に及んだ背景、改定内容の矛盾や問題点について、具体例を出

2月21日、福岡で「春を呼ぶ女性のつどい2004」を開催した。九州各県から約400人の男女の参加があり、東京法律事務所、今野久子弁護士を招いての講演やトークセッションを行った。

産休無給の有給化を 春を呼ぶ女性のつどい04

九州地連

無給、二人目は有給を勝ち取った後の出産で有給だった。たは、「無給のときは会社と完全に遮断されていた」という感じだった。有給の時、休んでいても会社と繋がっていることを実感した。お金だけでなく、精神面でも違い、復帰もスムーズだった」と体験談を語った。



講師を務めた今野久子弁護士

九州地連内では、サガテレビ、長崎国際テレビ、鹿児島読売テレビをはじめ、プロダクションなど未だ産休無給の単組が少なくない。

今野弁護士の「育児は、女性と男性と社会の責任。しかし、男女

緊急！ 雇用の多様化 対策会議

3月7日・東京

「緊急！雇用の多様化対策会議」は、3月7日に東京・麹町で開かれ、三十三人が参加した。労連本部の確水委員長が開会挨拶をしたあと、民放の不安定な雇用問題をとり上げて、労連本部の羽原副委員長から「民放雇用問題の焦点」と題する基調報告があった。

「緊急！雇用の多様化対策会議」は、3月7日に東京・麹町で開かれ、三十三人が参加した。労連本部の確水委員長が開会挨拶をしたあと、民放の不安定な雇用問題をとり上げて、労連本部の羽原副委員長から「民放雇用問題の焦点」と題する基調報告があった。

最後に、労連本部の井戸書記長がまとめを行い、「一人たりとも解雇者を許さない」と決意を改めて確認し、会議は終了した。



女性協議会

一人の解雇も許さない

「緊急！雇用の多様化対策会議」は、3月7日に東京・麹町で開かれ、三十三人が参加した。労連本部の確水委員長が開会挨拶をしたあと、民放の不安定な雇用問題をとり上げて、労連本部の羽原副委員長から「民放雇用問題の焦点」と題する基調報告があった。

なっているといけない」という脇田教授の冒頭の助言を裏づける講演となった。このあと、脇田教授、東北美術大学理事の鎌内さん、朝日SEB理事の安部さん、そして雇い止め撤回闘争を進めているKB&C映像労働組の三角委員長がパネラーとなってパネルディスカッションが行われた。それぞれの現状報告と切実な訴えがあり、会場からは応援のメッセージと大きな拍手が送られた。